

迅速な情報共有は生産性向上を目指す中小企業にとって重要な課題です。今回は、IT（情報技術）システムとみることでできるソーシャルメディアをグループウェアとして活用することで課題に対処している企業を紹介します。

酪農業を営むA社は、あらゆるモノがネットにつながるIoT・人工知能（AI）技術を活用した先端的システムを利用して、多くの乳牛を管理しています。ただ、従業員が広い牧場内に分散しているため、システムが検出した情報（疾病等のアラーム）をどう迅速に社内でも共有するかが経営課題になっていました。

そこでA社は「LINE WORKS」（LW）を導入しました。LINEのビジネス版であるLWはグループウェアとしての基本機能を備えています。①迅速な情報の伝達を可能にする「トーク（チャット）」、②全社的な情報の周知に利用される「ホーム（掲示板）」、③スケジュー



商工総合研究所主任研究員

藤野 洋氏

1985年一橋大経卒。商工中企で中小企業向け融資と経済調査に従事（同社で日本経済研究センターと東京商工会議所に出向）。現職では中小企業の産業・金融構造を研究。

情報共有の迅速化

生産性改革 の現場から

ルの設定・確認・調整に利用される「カレンダー」、④デジタルデータの保管・共有のための「Drive（ファイル共有）」などです。

トーク機能の利用により、文字だけでなく映像・画像も含めて隔地間の情報共有が瞬時にできるようになりました。また、作業場所でスマホを用いてDriveに収録されている多くのマニュアルにアクセスすることも可能になりました。

加えて、「トーク」には外部と連携する機能も含まれているため、情報セキュリティを確保しながら、獣医など社外との情報共有も行っています。この結果、同業者に比べて時間外労働を短くすること

ソーシャルメディア活用

ができています。先端的システムで得られた多くの情報を迅速に共有できるようになったことで「あらゆるプロジェクトでPDCAサイクルを回すプラットフォームができた」と、経営陣は高く評価しています。

A社のように、ITシステムを導入する際には従業員が無理なく利用できることが重要です。LWのインターフェースはLINEに似ていることから、円滑な導入が可能です。高度なITシステムで経営を高度化するにしても、ワークフローの前方・後方の事務を支えるシステムの整備が重要なこと分かります。

ソーシャルメディアというとマーケティングへの活用が注目されがちです。しかし中小企業ではグループウェアとしての活用の方が、情報共有を迅速化して時間外労働削減・業務効率向上を実現し「地に足のついた」生産性改革につなげやすい様子が見られます。